

COVID-19 の休校下で学校ホームページを介した学習支援に対する教員の認識

Study on Teachers' Recognition towards Learning Support through School Homepage in Emergency School Closure of Influence COVID-19

伊藤 真由^{*1}, 北澤 武^{*2}, 小島 崇義^{*3}

Mayu ITO^{*1}, Takeshi KITAZAWA^{*2}, Takayoshi KOJIMA^{*3}

^{*1} 東京学芸大学教育学部

^{*1} Faculty of Education, Tokyo Gakugei University

^{*2} 東京学芸大学大学院教育学研究科

^{*2} Graduate School of Teacher Education, Tokyo Gakugei University

^{*3} 足立区立辰沼小学校

^{*3} Tatsunuma Elementary School, Adachi-ku

Email: a181402x@st.u-gakugei.ac.jp

あらまし: 本研究は, COVID-19 の影響による緊急事態宣言の休校下において, 小学校のホームページ (以下 HP) を介して児童に学習支援を行った教員の認識を明らかにするために, Web による質問紙調査を行った. その結果, 教員は子供達にできることは何であるかが明確になったり, ICT の効果的な活用法に関する学びへの意欲が高まったりすることが分かった.

キーワード: COVID-19, 緊急事態宣言, ホームページ, 学習支援, 教員

1. はじめに

2020 年は COVID-19 の影響による緊急事態宣言によって多くの小学校が休校を余儀なくされる中, 休校中も児童が学べるような環境づくりをする取り組みが行われた⁽¹⁾. その 1 つとして, 学校ホームページ (以下 HP) を介したオンデマンド型の学習支援がある. しかしながら, このような学習支援は緊急で, かつ, 教員が模索しながら実施されたものであったため, 実際に学習支援となっていたかどうか評価することが重要と考える.

そこで本研究では, 休校中に学校の HP を介して児童とやり取りした教員を対象に Web による質問紙調査を行い, この取り組みに対する教員の認識を明らかにすることを目的とする.

2. 調査概要

都内公立 A 小学校では, 2020 年 5 月 31 日までの休校期間中に HP にて子供たちの学習支援を行っており, 本研究ではオンライン授業を実施することのできない A 小学校を対象に, 学校 HP を介した学習支援に対する教員の認識調査を実施した. A 小学校の教員を対象とし, 全 6 項目を質問紙により調査した (表 1).

2.1 開設した HP

2.1.1 教材の提供

COVID-19 による休校期間中に A 小学校では「おうちでまなぼう」という HP を介して子供たちとのやり取りを行っていた. 具体的には, 以下であった.

- ・自主学習用のプリント

「学習れんらくコーナー」のページでは学年ごとに毎週の時間割とその時間にやるプリントをダウンロードできる形で配布していた.

- ・Web テスト

3～6 年生には自主学習用として Google フォームによって作られた Web テストと自治体で作られた問題集を実施した. Web テストは送信すると瞬時に正答率がフィードバックされるようになっていた.

2.1.2 掲示板を介した教員とのやり取り

上述の教材の他にも, 児童と教員のやり取りを促すために掲示板を設けた. 掲示板には教員からのメッセージや授業動画が掲載された. また, 子供たちからの質問を受け付けそれに対する回答を行った.

2.2 対象

22 名の小学校教員に, 質問紙調査を実施した. 教員経験年数の内訳は 1 年目が 3 人 (13.6%), 2～5 年目が 3 人 (13.6%), 6～10 年目が 9 人 (40.9%), 11～15 年目が 2 人 (9.1%), 16～20 年目が 2 人 (9.1%), 21 年以上が 3 人 (13.6%) であった.

3. 分析

全 6 項目 (5 件法: 1. 全くそう思わない～5. とてもそう思う) を Web による質問紙調査で行った. 得られた結果について, 項目毎に肯定, 否定の回答の傾向を分析するために, 質問紙の尺度の中央値 (3) を閾値とする母平均の検定 (t 検定) を行った. また, 効果量を算出し, 分析の参考にした⁽²⁾.

4. 結果と考察

表 1 は, Web による質問紙調査の回答について, 母平均の検定を行った結果を示したものである. その結果, 「1. 「おうちでまなぼう」を介して, 子供が学校を求めていることを実感した ((21) = 4.82, $p < .05$)」は有意差が認められ, 平均値は 3.77 と中央値 3 よりも高かったことから肯定的な回答の方が多

表1 質問紙調査の結果（中央値を母平均とする検定（ t 検定））

項目	平均値	標準誤差	95%下限	95%上限	df	t 値	p 値	効果量 (r)
1. 「おうちでまなぼう」を介して、子供が学校を求めていることを実感した.	3.77	0.16	3.44	4.11	21	4.82	.000	0.23
2. 「おうちでまなぼう」を開設したことで、子供たちは安心したと思う.	3.68	0.19	3.29	4.08	21	3.58	.002	0.11
3. 「おうちでまなぼう」を開設したことで、教師として、今、子供たちにできることが何であるか明確になった.	3.77	0.13	3.50	4.04	21	5.92	.000	0.06
4. 「おうちでまなぼう」を開設したことで、短時間で各教科の学びを児童に伝える方法が身に付いた.	3.00	0.15	---	---	---	---	---	0.00
5. 「おうちでまなぼう」を開設したことで、ICTの効果的な活用法について理解した.	3.68	0.12	3.43	3.93	21	5.63	.000	0.02
6. 「おうちでまなぼう」を開設したことで、教育における効果的なICT活用についてもっと学びたくなった.	4.23	0.13	3.96	4.50	21	9.41	.000	0.23

いことが分かった。「2. 「おうちでまなぼう」を開設したことで、子供たちは安心したと思う ($t(21)=3.58, p<.05$)」は有意差が認められ、平均値は3.68と中央値3よりも高かったことから肯定的な回答の方が多分かった。「3. 「おうちでまなぼう」を開設したことで、教員として、今、子供たちにできることが何であるか明確になった ($t(21)=5.92, p<.05$)」は有意差が認められ、平均値は3.77と中央値3よりも高かったことから肯定的な回答の方が多分かった。休校期間中に開設したHPを介して、教員は問1～3に関する認識を高められる可能性が示唆された。今後、教員のこれらの認識と児童の認識がどれほど合致しているか、分析することが重要と考える。

「5. 「おうちでまなぼう」を開設したことで、ICTの効果的な活用法について理解した ($t(21)=5.63, p<.05$)」は有意差が認められ、平均値は3.68と中央値3よりも高かったことから肯定的な回答の方が多分かった。「6. 「おうちでまなぼう」を開設したことで、教育における効果的なICT活用についてもっと学びたくなった ($t(21)=9.41, p<.05$)」は有意差が認められ、平均値は4.23と中央値3よりも高かったことから肯定的な回答の方が多分かった。問5、6から、休校期間中に「おうちでまなぼう」のHPを開設したことで、教員の効果的なICT活用法に関する理解が向上したり、より効果的なICT活用について学びたいという意欲が高まったりする可能性が示唆された。教員のICT活用指導力を高める方法の1つとして、今後、本研究のようなHPを運用することが考えられる。

なお、「4. 「おうちでまなぼう」を開設したことで、短時間で各教科の学びを児童に伝える方法が身に付いた」の平均値は3.00で、有意差なしと判断された。このことから、多くの教員は、HPを開設することと児童に短時間で各教科の学びを定着させることとの関係はどちらも言えないという認識であることが分かった。今後、HPを活用しながら主体的で

対話的な深い学びを実現する方法を検討し、各教科の学びの支援になるか、評価することが求められる。

5. まとめと今後の課題

本研究では、COVID-19による休校中に学校ホームページを介した学習支援を行った。そして、休校中のHPを介したやり取りによる教員の認識について、Webによる質問紙調査から分析した。その結果、HPを介した学習支援を通して、教員は子供達にできることは何であるかが明確になったり、ICTの効果的な活用法に関する学びへの意欲が高まったりすることが分かった。

だが、「HPを利用して短時間で各教科の学びを児童に伝える方法が身に付いた」という教員の認識はどちらも言えないという回答が多かった。今後の課題として、HPと学校の対面をどのように組み合わせ利用していくか検討していく必要がある。富永・向後(2014)によると、eラーニングは反復学習やフィードバックができる点において優れていると述べている⁽³⁾。よってHPを介した学習支援の取り組みで反復学習や学習者に対するフィードバックに重点をおき、対面学習や同時双方向型の授業と組み合わせ授業を進めていくことが子供たちの学びを促進させることにつながると考えられる。そのため、HPでの資料等配布のほかに児童が確実に反復学習を行える問題作成や、フィードバックを行えるように改善していくことが求められる。

参考文献

- (1) 文部科学省：“新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた公立学校における学習指導等に関する状況について”，https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt-kouhou01-000004520_1.pdf（参照日 2020.12.12）（2020）
- (2) 水本篤，竹内理：“効果量と検定力分析入門—統計的検定を正しく使うために—”，2010年度部会報告論集「より良い外国語教育のための方法」，47-73（2010）
- (3) 富永敦子，向後千春：“eラーニングに関する実践的研究の進展と課題”，日本心理学年報，53，156-165（2014）